

令和4年度
長野県高等学校総合体育大会
剣道競技

侃



高校総体

前進しよう・向上しよう・飛躍しよう

日時	令和4年6月3日(金) 6月4日(土) 6月5日(日)
会場	長野県立武道館
主催	長野県高等学校体育連盟 長野県教育委員会
共催	(公財)長野県スポーツ協会 (一財)長野県剣道連盟
後援	佐久市教育委員会 信濃毎日新聞社
主管	長野県高体連剣道専門部

県高体連ホームページ <http://www.ngn-hssp.org>
メール koutairen@ngn-hssp.org

問合せ先 剣道専門委員長 榛葉 亨(南安曇農業高校)
TEL 0263-72-2139

令和4年度 長野県高等学校総合体育大会役員表

名 誉 会 長	長野県知事	阿部 守一
名 誉 顧 問	長野県副知事	関 昇一郎
大 会 会 長	長野県高等学校体育連盟会長	桑原 俊樹
大 会 副 会 長	長野県高等学校体育連盟副会長	宮本 隆
		新津 英人
		上原 一善
		埋橋 浩
		石川 裕之
	長野県高等学校体育連盟剣道専門部長	城田 真之
顧 問	長野県教育委員会教育長	内堀 繁利
	長野県教育委員会教育委員	酒井 英樹
		矢島 宏美
		塚田 裕一
		中川 綾
		荒川 玲子
	長野県教育委員会事務局教育次長	尾島 信久
		今井 義明
	(公財) 長野県スポーツ協会副会長	桑原 俊樹
		小坂壮太郎
		児玉 幹夫
		萩原 清
		林 泰章
	(一財) 長野県剣道連盟会長	加瀬 浩明
	佐久市長	柳田 清二
参 与	長野県教育委員会事務局参事兼高校教育課長	服部 靖之
	長野県教育委員会事務局スポーツ課長	北島 隆英
	(公財) 長野県スポーツ協会理事長	林 泰章
	(公財) 長野県スポーツ協会専務理事	茅野 繁巳
	(公財) 長野県スポーツ協会事務局長	伊東 一雄
	(一財) 長野県剣道連盟副会長	折口 築
		藤極 清隆
		北原 一正
		依田 房生
	佐久市教育長	吉岡 道明
	長野県高等学校体育連盟加盟高等学校長 [氏名省略]	
大 会 委 員 長	長野県高等学校体育連盟理事長	島崎 剛
大 会 副 委 員 長	長野県高等学校体育連盟副理事長	矢野 清隆
		細田 健司
		鷹野 俊幸
		丸山 靖幸
	長野県高等学校体育連盟剣道専門委員長	榛葉 亨
委 員	長野県教育委員会事務局スポーツ課 課長補佐兼管理係長	山田 哲也
	長野県教育委員会事務局スポーツ課教育主幹兼学校体育係長	酒井 修一
	長野県教育委員会事務局スポーツ課教育主幹兼体育スポーツ振興係長	田島 康彦
	長野県高等学校体育連盟剣道専門委員	朝田 将幸
		藤原 慎吾
		木下 孝繁
	長野県高等学校体育連盟理事 [氏名省略]	

審判・係表

大会長	城田 真之						
審判長	青柳 俊幸						
副審判長	榛葉 亨						
競技委員長	榛葉 亨						
競技委員	朝田 将幸	藤原 慎吾	木下 孝繁	市村 渉	松田 健一		
審判員	佐藤 勉	宮崎 浩	小林 厚志	宮本 達也	大草 務		
	竹内 泰久	山岸 禅	飯島 涼太	柳澤 剛	河面 佑		
	矢野 博之	新井 克己	上原 一馬	松崎 伸哉	小林 嘉孝		
	高柳 剛士	若林 康彦	前嶋 輝	山口 雅子	仁木 良子		
	鈴木 英介	仁木 邦彦	神津 純	武田 朋大	細野 雅也		
	丹羽 貴	安部 博文	西澤 佳志	今井 裕敬	堀金 猛		
	八幡 大輔	小町屋良一	本島 尚之	小平 紀文	後藤 將史		
	鎌原 央典	藤原 一史	中島 和成				
	中体連・剣道連盟審判員						
試合場主任	桐生 賢蔵	竹岡 康太	柳沢 光希	轟 祐輔	速渡 賀大		
	青砥 雅之	各会場審判員					
救 護	長野県高体連剣道専門部						
検 量	山口 雅子	鈴木 英介	高柳 剛士	細野 雅也			
記 録	市村 渉	朝田 将幸	藤原 慎吾	木下 孝繁			
受 付	松田 健一	武田 朋大	藤澤 信子	石川 美和			
	小山 明彦	中垣 和恵					
会 場	藤原 慎吾						
報 道	木下 孝繁	市村 渉					
補助員指導	朝田 将幸	(長野日大 佐久長聖 上田西 上田染谷丘)					

試合運営事項

①足袋・サポーター使用について

- ・床の接地面に皮・合皮・ゴムは不可。

②試合進行について

- ・昼食時間は、密を避けるため特に時間を設けません。食事をする学校は感染対策を取って行ってください。
- ・表彰式は各部門が終了次第行います。
- ・試合はトーナメント戦とし、団体戦、個人戦とも三位決定戦を行なう。
- ・審判目合せは個人戦 2 試合終了後、団体戦 1 試合終了後、試合場ごとに実施する。
※場合によっては、上記以外に目合わせを行うこともある。(二日目・三日目同様)

③試合方法について

- ・(公財)全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則」及び高体連申し合わせ事項、「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法」で行う。
- ・個人戦 4 分 3 本勝負 時間内に勝敗が決しない場合、4 分ごとの延長戦を行い、2 回終了後に呼吸を整えさせる為の休息を立礼の位置で行う。延長戦 4 回終了後面を外し給水処置を行う等の休憩をとる。休憩時間はおおよそ 4 分間とし、4 分後までに試合が開始できるように準備する。延長戦が長引く場合はこれを繰り返し行う。
休憩の場合審判員は一度控え席に下がる。
- ・団体戦 4 分 3 本勝負。時間内に勝敗が決しない場合は引き分けとする。
※代表戦の場合、4 分 1 本勝負。勝敗が決しない場合 4 分ごとの延長戦を行う。(個人戦同様)

④竹刀の検量について

- ・検量は本年度については、新型コロナウイルス感染防止対策として、各校監督が責任を持って竹刀の

検量を行い、所定の用紙に必要事項を記載し届け出る。届け出時に竹刀を持参し検印を受ける。

・竹刀には校名・氏名を明記すること。模様付鏢・滑り止め加工の柄の使用は禁止します。

・検量は一人2本とし、追加は試合当日本部対応します。

・検量受付を3日（個人戦出場者）10時15分～10時45分

4日（男子）・5日（女子）8時45～9時15分で竹刀検量の届け出を行います。

※団体戦の検量受付は各高校試合会場前で届け出を行う。

⑤5人に満たないチームとの対戦は、対戦校が不戦勝ちとする場所を指定する。なお登録が5人であって、試合開始時に欠員がでた場合も上記と同様とします。

日 程

6月 3日（金）

開場（選手） 10：00

検量開始 10：15

審判・監督者会議 10：45～11：15

開始式 12：10

競技開始 12：30

表彰式（各部門が終了次第）

6月 4日（土）・5日（日）

開場（選手） 8：30

検量開始 8：45

審判・監督者会議 9：15～9：45

開始式 10：20

競技開始 10：30

表彰式（各部門が終了次第）

〔練習会場及び練習時間〕

試合会場・剣道場にて、試合前及び試合終了後決められた時間実施可能。

6月3日（金）

・個人戦女子出場者は11時20分～12時00分とし個人戦男子出場者は女子個人戦終了後40分間実施可能。

・男女団体戦出場者は個人戦終了後実施可能となりますが、男子、女子の順に時間を分けて行います。時間については、試合終了後に連絡をいたします。

6月4日（土）

・男子団体戦出場者は検量終了後～10時10分まで実施可能。剣道場は14時までとなります。

・女子団体戦出場者は試合終了後実施可能。試合終了後時間については連絡をいたします。

6月5日（日）

・女子団体戦出場者は検量終了後～10時10分まで実施可能。剣道場は使用不可

【6月3日（金）】

第1試合場	第2試合場	第3試合場	第4試合場
女子個人戦 1～4、17、18 25、29 決勝戦 32	女子個人戦 5～8、19、20 26	女子個人戦 9～12、21、22 27、30 3位決定戦 31	女子個人戦 13～16、23、24 28
男子個人戦 1～4、17、18 25、29 決勝戦	男子個人戦 5～8、19、20 26	男子個人戦 9～12、21、22 27、30 3位決定戦	男子個人戦 13～16、23、24 28

【6月4日（土）】

第1試合場	第2試合場	第3試合場	第4試合場
男子団体戦 1～3、10～13 26、27、34、38 決勝戦	男子団体戦 4、5、14～17 28、29、35	男子団体戦 6、7、18～21 30、31、36、39 3位決定戦	男子団体戦 8、9、22～25 32、33、37

【6月5日（日）】

第1試合場	第2試合場	第3試合場	第4試合場
女子団体戦 1～3、12、13 20、24 決勝戦	女子団体戦 4、5、14、15 21	女子団体戦 6～8、16、17 22、25 3位決定戦	女子団体戦 9～11、18、19 23

◎大会の会場への入場について

- ・大会は無観客でおこなう。
- ・会場へは、役員、選手、監督、補助員とする。選手以外の部員については入場を許可するが、ギャラリーにて観戦とし、試合会場には入れない。
- ・試合のある選手のみ試合会場に入場し、その他の選手等については試合会場に下りず、ギャラリーにて待機するようにしてください。

個人戦…選手・監督のみが試合場に入れます。

団体戦…男女別で登録選手・監督が試合場に入れます。

（新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご協力ください）

- ・練習については、登録選手のみとし、試合会場での実施となるため、短時間で、譲り合って行うようにしてください。
 - ・個人戦出場者が1名の場合は、練習相手として1名付けることができる。その他はメインアリーナギャラリーにて待機する。
 - ・各自でゴミ袋を用意し、ゴミはすべて持ち帰ってください。※ゴミ袋の持参をお願いします。
 - ・下足は各自でビニール袋を用意し、各自で管理をしてください。
 - ・監督・顧問・外部指導者の方は、背広・ネクタイで試合場へ入って下さい。
 - ・ギャラリーでは密にならないよう座席を1席空け、譲り合って座るようにしてください。
 - ・剣道具等の荷物については、座席におかず、整理してギャラリー通路に置くようにしてください。
 - ・男子の更衣はギャラリーを使用する。女子更衣室は混雑が予想されることから、密にならないように譲りあって使用する。なお、試合の終了した選手は直ちに着替え、帰り支度をするようにし早めに解散してください。選手は、できる限り着替えて会場に入るようにしてください。
 - ・ビデオ撮影については、部員数の少ない学校への配慮として、選手席後方に撮影場所を設置いたします。団体戦について適応し、試合場に入れる選手にて撮影を行う。
 - ・アリーナ南側の駐車場については、役員、審判員、監督を優先とし、その他の方については北側の駐車場をご利用ください。（マイクロバスも北側の駐車場へ）
 - ・参加者確認票は、必要事項を記載し顧問が集め、入場時受付にて確認を受けてください。受付は顧問1名のみとし、確認後選手の入場となります。
- 大会中参加者確認票は顧問が管理し、全ての参加者確認票を大会終了時に本部に提出してください。大会終了から2週間専門部にて管理いたします。

（今後の大会について）

- ・全国高校総体について
本大会の個人戦男女上位2名、団体戦は優勝校が令和4年8月5～8日高知県高知市で行われる大会に出場する。
- ・北信越大会について
本大会の個人戦男女上位8名、団体戦は男女上位4チームが、令和4年6月17～19日福井県立武道館で行われる大会に出場する。
本年度については1チーム3名以上で出場可。4名の場合は次鋒、3名の場合は次鋒、副将を抜く。
- ・全日本都道府県対抗女子優勝大会先鋒については、個人戦優勝者より選考。

令和4年度長野県高校体育連盟総合体育大会剣道大会実施に関する
『新型コロナウイルス感染拡大防止対策』連絡事項（重要）

【大会運営】

1. 以下に該当する者は出場（関係者は参加）できない。

①基礎疾患のある者

- ・基礎疾患のある者とは、「糖尿病、心不全、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方など」をいう。
- ・これらの者が理由あって出場（参加）する場合は、主治医の承認を得るものとする。

②発熱のある者（個人差があるが、一般的には37.5度以上ある者をいう）

③咳・咽頭痛など風邪の様な症状がある者、その他体調がよくない者、同居家族や身近な知人に感染及び感染が疑われる方がいて接触がある場合。

④過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

2. 選手並びに関係者は、大会当日に自宅で検温を行い、確認票に、氏名・住所・連絡先電話番号及び当日の体温を記録し、大会会場に持参する。

3. 選手は、面マスク及びいわゆる家庭用マスク（関係者は家庭用マスク）を持参する。選手は、試合時には面マスク、それ以外（試合開始までの待機中等）は家庭用マスクの着用を前提としている。試合時以外でも面マスクを着用する予定の選手は、面マスクのみの持参で可。審判員及び役員はマスク（白色の不織布マスク）を着用、係員（受付、検量等）はマスク及びフェイスシールドを着用する。

4. 選手は、試合中マスク及びマウスガードを必ず使用する。マスクは口と鼻を覆うものとする。

※試合以外是不織布マスクを推奨

5. 大会は無観客で行い、入場は、選手・監督・顧問・大会役員・係員等許可された関係者のみとする。大会関係施設への立ち入りも同様とする。

6. 選手並びに役員等関係者は常にフィジカル・ディスタンスを保つようにする。（人との距離を最低でも1m保つ）。

7. 観覧席使用の場合は、3密を避けるため1席以上の間を空け座る。場所取りは行わず、荷物は所定の場所に置く。

【入場にあたって】

1. 選手並びに関係者は、自宅と大会会場との往復の際にはマスクを着用し感染予防に努める。

2. 着替えの際は、密集を避けるため、できるだけ家庭で着替えを行った上、入場する。更衣室では密にならないよう努める（荷物は所定の場所に置く）。

3. 受付・施設入場・竹刀検量を行う際は係員の指示に従い、行列にならないよう他者との距離を十分保つ。

4. 大会会場に入場する全ての生徒、顧問、役員は「参加者健康確認票」に必要事項を記載し、提出す

る（選手・補助員は顧問が集めて受付で提出）。

複数日参加する場合は、参加の最後の日に提出する。（確認は毎日行う）

①確認票を持参しなかった者は、原則として入場できない。

②無観客での大会のため、保護者・OB・OG は入場できない。

③受付までに入場者全員の体温測定を行う。（家庭にて測定した者については確認を行う。）

④大会で使用する全ての箇所については、入場を許可された者以外の立ち入りはできない。

5. 選手並びに関係者は、アルコール除菌液で細目に手指消毒を行う。また、細目に手洗いも行う（各学校または各自でアルコール除菌液を準備してさらに消毒の徹底を図る）。

6. 選手及び関係者は細目に手洗い・うがいを行う。

【試合及び審判方法】

1. 鏢競り合いは感染防止の観点から、お互いに短くなる様に努める。やむを得ず鏢競り合いとなった場合は、すぐに分かれるか、引き技を出す。（鏢競りでの発声は行わない。引き技の瞬間的な発声は認める）。審判員は鏢競り合いを解消しない場合は、「分かれ」を宣言する。

2. 審判員は、試合時マスクを着用する。（白色の不織布マスクとする）

3. 審判員は、できる限り各自の審判旗を持参する。審判旗は共用しない。

4. 審判員の入場、位置、移動等については、全剣連からの資料を参照する。

【大会時間、内容】

1. 開閉会式は行わない。表彰式については部門ごと、試合が終了次第行う。

2. 県大会での試合順については、1 日目男女個人戦、2 日目男子団体、3 日目女子団体とし、それぞれ決勝まで行う（地区大会については、地区ごとの現状に合わせて行う）。

3. 試合時間は個人戦 4 分 3 本勝負。勝敗の決しない場合、4 分ごとの延長戦を行い、2 回終了後に呼吸を整えさせる為の休息を行い、延長戦 4 回終了ごとに面を外し給水処置を行う等の休憩をとる。休憩時間はおよそ 4 分間とし、4 分後までには試合が開始出来る様に準備する。

団体戦 4 分 3 本勝負。勝敗が決しない場合、延長戦は行わず引き分けとする。代表戦は 4 分 1 本。勝敗の決しない場合、4 分の延長戦を行い、2 回終了後に呼吸を整えさせる為の休息を行い、延長戦 4 回終了ごとに面を外し給水処置を行う等の休憩をとる。休憩時間はおよそ 4 分間とし、4 分後までには試合が開始出来る様に準備する。

試合の途中であっても選手の状況によっては、審判主任または審判員が試合を止め、状態の確認を行い、必要と判断される場合は休息または休憩を取る。

4. 「アップ練習」については、指定された場所、時間で行う。ただし、密にならないようにするため、出場選手のみの使用とし、短時間とする。

【その他】

1. 選手及び関係者は、ごみは必ず持ち帰る。使用したマスク、ティッシュ等は持参したビニール袋に入れ、封をして持ち帰る。

2. 大会終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合、速やかに専門委員長に報告す

る（濃厚接触者の有無等についても報告）。又、各校顧問は全剣連への報告も行う。

3. ビデオ撮影については、原則ギャラリーにて行う。

監督、選手のみでギャラリーにて撮影できない学校のために、選手席後方に撮影場所を設置いたします。指定された場所にて撮影を行ってください。

4. 大会において新型コロナウイルス感染者が出た場合は、保健所の指示により PCR 検査等の実施をお願いすることがあります。結果は速やかに各地区専門委員長に報告してください。

5. 学校において生徒・教職員の感染が確認された場合、保健所が感染者の行動履歴把握や濃厚接触者等特定の為の調査を行います。学校設置者が、保健所の調査や学校医の助言を踏まえて臨時休業（学校の全部）の判断をした場合、当該学校はその期間は大会参加禁止とします。

但し、保健所の調査により濃厚接触者・接触者と判断されなかった生徒は大会参加可能です。

以上の内容については各地区大会でも同様に行います。

令和4年度

公益財団法人 全国高等学校体育連盟剣道専門部 申し合わせ事項

下記の事項は、公式試合における全国高体連剣道専門部としての統一的な事項である。
特に全国大会（全国高校総体・全国選抜大会）においては、これを厳守することとする。

1 大会参加資格について

- (1) (公財) 全国高等学校体育連盟の定める「全国高校総体開催基準要項の大会参加資格」による。
- (2) (公財) 全国高体連剣道専門部の定める「外国人留学生の出場枠」(下記)による。
 - (イ) 学校教育法第1条に規定する高等学校に卒業を目的として入学している生徒であること。
 - (ロ) 在籍校が、各都道府県高体連剣道専門部に加盟していること。
 - (ハ) 年齢は平成15年4月2日以降に生まれた者とする。ただし出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回に限る。
- (ニ) 短期留学は除く。
- (ホ) 上記(イ)から(ニ)の条件を総て満たしている者に限り、以下の出場枠で参加を認める。
 - 団体戦・・・補欠を含めた7名中の2名以内の出場枠とする。
 - 個人戦・・・参加制限をしない。

2 選手心得

- (1) 選手は気品のある態度で全力をあげて試合をする。
- (2) 選手の服装・竹刀・剣道具は、その安全性と公平性が保たれていること。規格外のものを使用したり、華美な装飾や細工等を施したりしないようにする。
- (3) 選手の服装は、紺（黒）または白の剣道着・袴とする。なお、刺繍等により華美にならないこと。
- (4) 試合者の目印に校名などを大きく目立つように入れてはいけない。目印を着ける時は折り返した二枚の長さが揃うように着ける。

3 引率責任者、監督の資格について

- (1) 引率責任者は、団体の場合は校長の認める当該校の職員とする。個人の場合は校長の認める学校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の2に示された者）も可とする。但し、「部活動指導員」に引率を委嘱する校長は、都道府県高体連会長に事前に届け出る。
- (2) 監督、コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険等）に必ず加入することを条件とする。

付記：但し、各都道府県における規程があり、引率・監督者がこの基準より限定された範囲内であればその規程に従うことを原則とする。

4 監督心得

- (1) 監督の服装は、以下の通りとする。
 - (イ) 全国高校総体では、白シャツ、ズボン（白・灰色）または剣道着、袴（色は紺、黒、白いずれか）とする。
 - (ロ) 全国選抜大会では、スーツ（ジャケット）、ネクタイ、または剣道着、袴（色は紺、黒、白のいずれか）とする。
- (2) 試合場に入ることができるのは、監督・選手・補欠のみとし、他の者の入場は厳禁する。

5 規則の運用及び大会運営について

- (1) 試合はすべて一刀（一本の竹刀）にて行うものとする。二刀にての試合は認めない。
- (2) 全国総体での竹刀検量は、以下の要領で行う。
 - (イ) 監督の責任において検量本数を「竹刀検量申請書」により申請する。
 - (ロ) 事前に申請する竹刀の本数は選手一人当たり3本以内とする。
 - (ハ) 全国総体においては、竹刀検量において規格外等により不合格となった竹刀を一時預かり、当該選手が所属する団体及び当該選手の試合が終了後返却する。
- (ニ) 大会期間中、破損等による追加の申請は破損した竹刀を持参のうえ「竹刀検量【追加】申請書」により申請する。
- (3) 不正用具を使用した時の罰則は試合規則17条・19条の通りであるが、個人戦と団体戦を含めて行う大会においては、両方に適用する。
 - (イ) 団体戦・個人戦における不正用具使用者は、以後の試合に出場できない。団体トーナメント戦における補欠の出場は別に定めのない限り認める。
 - (ロ) リーグ戦にあつては、不正用具使用者の総ての試合を負けとし、補欠の出場は認めない。
- (4) 試合時間は、全国総体（団体戦・個人戦）、全国選抜大会ともに4分とする。延長戦については、以下のとおりとする。
 - (イ) 全国総体の個人戦において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、先に1本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は、4分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦2回ごとに「休息」・「休憩」を交互に繰り返す。
 - (ロ) 全国総体の団体戦における代表者戦において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、先に1本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は、4分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦2回ごとに「休息」・「休憩」を交互に繰り返す。
 - (ハ) 全国総体の団体戦における代表者戦以外の延長戦は、試合時間を2分とする。試合時間内に勝敗が決しない場合は、引き分けとする。
 - (ニ) 全国選抜大会において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行わず、引き分けとする。ただし、代表者戦において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、先に1本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は、4分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦2回ごとに「休息」・「休憩」を交互に繰り返す。

付記：（1）勝敗の決するまで延長戦を継続する場合、延長戦2回ごとに「休息」と「休憩」を交互に繰り返すが、主審は試合者の疲労度等を観察し、さらに休息等の措置が必要と判断したら、「止め」を宣告し深呼吸等の措置をとることができるものとする。
「休息」…立礼の位置まで下がらせて深呼吸させる。試合再開までは1分程度を目途とする。

「休憩」…選手を選手席に戻し、面を外させて給水させる。試合再開までは4分程度を目途とする。審判員も一度審判員席に戻る。

(2) 各都道府県の大会における「試合時間」と「延長戦の試合時間」については、原則として全国大会を基準とする。ただし、運営する大会により別に定めることはできるものとする。

(5) 団体戦・トーナメント戦において、チームの勝敗が決定した後の試合は延長戦を行わない。

(6) 全国大会団体戦の選手変更は以下の方法、条件内で認める。

(イ) 監督会議前までに所定の届けを大会事務局へ提出する。

(ロ) 変更する選手の人数は原則2名以内とする。

(ハ) 全国総体で、選手変更する場合、先鋒から大将までのオーダーは変えられない。

(ニ) 全国総体では、参加申込時の選手5名補欠2名に対し、新たな選手を入れる場合は補欠を飛び越して選手と直接変更することはできない。

(7) 団体戦において、補欠と交代した選手の再出場は認めない。(大会が2日以上の場合は全期間にわたって適用する。) 但し、全国選抜大会においてはこの限りではない。

(8) 予選リーグにおける引き分けの際は、その都度勝負を決定せずにそのリーグ終了後下記の順で勝敗を決め、また代表者戦を行う。

(イ) チームの勝ち点による。(勝ち1点、分0.5点)

(ロ) 勝者数による

(ハ) 総本数による

(ニ) 上記(イ)から(ハ)までで3チームの順位が決定しない場合は、代表者戦によるリーグ順位決定戦を以下の要領で行い当該リーグの1位を決定する。

① 代表者戦の対戦順は予選リーグ戦時の対戦順とする。ただし、1位チームが決定した後の試合は行わないものとする。

② 代表選手は選手の安全面等に配慮し、代表者戦ごと変更することを可とする。

③ 礼法については、代表者戦1巡目のみ当該の試合に出場した5人を整列させて行い、2巡目に入った場合は代表選手のみの礼とする。

④ 審判は予選リーグ戦時における当該の審判員が行う。

(9) 代表者戦の選手は、当該の試合に出場した先鋒から大将までの5人の選手から選出する。但し、予選リーグにおいては補欠と交代した選手の再出場は認めない。代表者戦は一本勝負とする。

(10) 鏢競り合いについて

(イ) 試合者は、正しい鏢競り合いの攻防から10秒以内に技を出すか、または、相互に間合いを切って鏢競り合いを解消しなければならない。

正しい鏢競り合いとして以下に示す内容を審判の判定基準とし、この基準からはずれる場合は不当な鏢競り合いの反則とする。

① 手元が上った拳競り合いにならないようにし、手元を下げた相互に鏢元と鏢元を合わせて竹刀を交差させる。(このことを試合者同士が相互に努力して行うことを前提とする。)

② 鏢元で竹刀の表鍔を交差させる。(竹刀は右傾前方に傾ける。)

③ 瞬間的に裏交差はあり得るが、直後に表鍔側での交差に直さなければならない。(先に裏交差した者や右拳を体の中心より左側において鏢競り合いをする者は反則の対象となる。)

④ 鏢競り合いは、相互に鏢元で圧力をかけ合っている状態とする。(相手の力を故意に吸収して体を密着させる行為は反則の対象となる。)

- (ロ) 審判員は、不当な鍰競り合いの「反則」を厳密に見極めるとともに、正しい鍰競り合いの攻防が10秒程度続いた場合、時間空費の「反則」または「分かれ」を見極める。
ただし、安易に「分かれ」をかけない。
- (ハ) 運用の詳細については、別紙＜高校剣道一鍰競り合い改善＞概要版（平成22年5月3日決定）による。
- (11) 合議をかけて反則とする場合、合議後に主審はそのまま選手に近づき、具体的に内容を説明する。その後、主審の位置に戻り、「公正を害する行為」・「時間空費」・「不当な鍰競り合い」等の文言を添えて、反則を宣告する。
- (12) 審判員は、全国大会で自分の所属する都道府県の学校及び選手が対戦する試合の審判は行わない。また、出身高校や親族等の関係する試合の審判は行わない。
- (13) 全国大会においてオーダーミスがあった場合の措置については、以下のとおりとする。
- (イ) 試合開始宣告前に発覚した場合は、正規のオーダーに改めさせ、特に罰則は与えない。
(試合開始宣告とは、その選手が行う試合の「始め」の宣告とする。)
- (ロ) 試合中あるいは試合後に発覚した場合は次のように措置する。
(その試合場の審判主任へ異議を申し出る。)
- [例えば、先鋒と次鋒のオーダーミス]
- *先鋒、次鋒とも相手に2本を与えて負けとする。
 - *先鋒、次鋒とも既得本数は認めない。
 - *先鋒、次鋒とも当該試合には出られない。
- (試合後の発覚とは、チームの大將戦が終了し、団体の礼が終わるまでに発覚した場合をいう。試合の勝敗は、団体の礼をもって「成立」とし、それ以後の異議申し立てはできない。)
- (ハ) 上記(ロ)は、
- ①トーナメント戦においては、当該試合のみ適用する。
 - ②総体予選リーグにおいては、当該試合及び以後のリーグ戦の試合にも適用する。
- (ニ) オーダーミスをした選手（チーム）の以後の試合は、次のように措置する。
- ①トーナメント戦においては、正規のオーダーに改めさせ出場を認める。
選抜大会（フリーオーダー制）においても出場を認める。
 - ②総体予選リーグにおいては、出場を認めない。また、補欠の補充も認めない。
- (14) 応援は拍手のみとする。指示や声援は厳禁とする。
- (15) 会場に各種旗（校旗、部旗、それに類するもの）の掲揚はしない。

6 事故の処理

選手が負傷した場合は、医師及び監督の意見を聞いた上、審判主任と審判員の4名が審判長の了解を得て試合継続の可否について決定する。試合の継続が決定した後、原則として5分以内に試合を再開する。

7 試合放棄に対する措置について

全国大会において試合放棄が行われた場合、原則として以下の措置をとる。

試合放棄とは事故や負傷などによる棄権ではなく、運営や判定に対する不満により、試合を一方的に放棄した場合をいう。

(1) 試合放棄の事実確認及び事情聴取

審判長または審判主任は、監督及び選手に対して試合放棄の事実を直接確認し、その事情聴取にあたる。

(2) 競技上の取り扱い

剣道試合・審判規則第31条（棄権）、細則28条に則り以下の通り処理する。

（イ）試合を放棄した者は負けとし、その後試合に出場することができない。

（ロ）個人戦においては、相手に2本を与えて負けとする。既得本数は認めない。

（ハ）団体戦においては、相手チームに5勝10本を与えて負けとし、既得本数は認めない。

（リーグ戦においてはそのリーグすべての試合を、相手チームに5勝10本を与えて負けとし、既得本数、既得権は認めない。）

補足：団体戦においては、チームとして試合放棄した場合とチーム内の1選手が試合放棄した場合があり得るが、ともに上記③のとおり処置する。

(3) 試合放棄した個人または団体（監督も含め）に対する事後の指導措置

（公財）全国高体連剣道専門部長は、副部長・委員長と協議し当該者に対し指導を講ずる。その結果を全国専門委員会に報告する。

付記：各都道府県の大会における試合放棄は、各都道府県高体連及び剣道専門部に一任する。その結果を（公財）全国高体連剣道専門部長に報告する。

（令和4年5月3日一部改定）

令和4年度

公益財団法人 全国高等学校体育連盟剣道専門部 努力目標

1. 指導方針

剣道の理念をより深く認識し、心気力一致の剣道を目指す。

- ◎ 正しい心で稽古も試合もするよう指導する。
- ① 望ましい指導者のあり方について研鑽を積む。
(指導者に対する各種の意見に対しては耳を傾け研鑽の材料とする。)
- ② 真の有効打突を求め、その指導に徹する。
(気剣体一致の打突を常に念頭に置き指導する。)
- ③ 正しい鏝競り合いを徹底する。
正しい鏝競り合いとして以下に示す内容を徹底して指導する。
 - ア 手元が上った拳競り合いにならないようにし、手元を下げた相互に鏝元と鏝元を合わせて竹刀を交差させる。
(このことを試合者同士が相互に努力して行うことを前提とさせる。)
 - イ 鏝元で竹刀の表鍔を交差させる。
(竹刀は右傾前方に傾ける。)
 - ウ 瞬間的に裏交差はあり得るが、直後に表鍔側での交差に直さなければならない。
(先に裏交差した者や右拳を体の中心より左側において鏝競り合いをする者は反則の対象となることも指導する。)
 - エ 鏝競り合いは、相互に鏝元で圧力をかけ合っている状態とする。
(相手の力を故意に吸収して体を密着させる行為は反則の対象となることも指導する。)
- ④ 試合時間の大半を「鏝競り合いに費やす試合展開」ではなく、「間合いを取り、対峙して攻め合う試合展開」になるように指導する。
(お互いに分かれて鏝競り合いを解消する場合は、右足前の中段の構えを基準として呼吸を合わせ潔く剣先の触れない位置まで間合いを切ることを指導する。)
- ⑤ 公明正大に試合するように指導する。
(攻めもなく打突することなく、構えて即、深い間合いに入ったり、鏝競り合いに持ちこむ試合行動はさせない。)
- ⑥ 安全に留意した稽古・試合を行うよう指導を強める。
(先細竹刀の使用、竹の肉厚を薄く削る等、危険と思われる形状の竹刀の使用を止めさせる。)
(危険と思われる突きは止めさせる)

2. 審判員留意事項

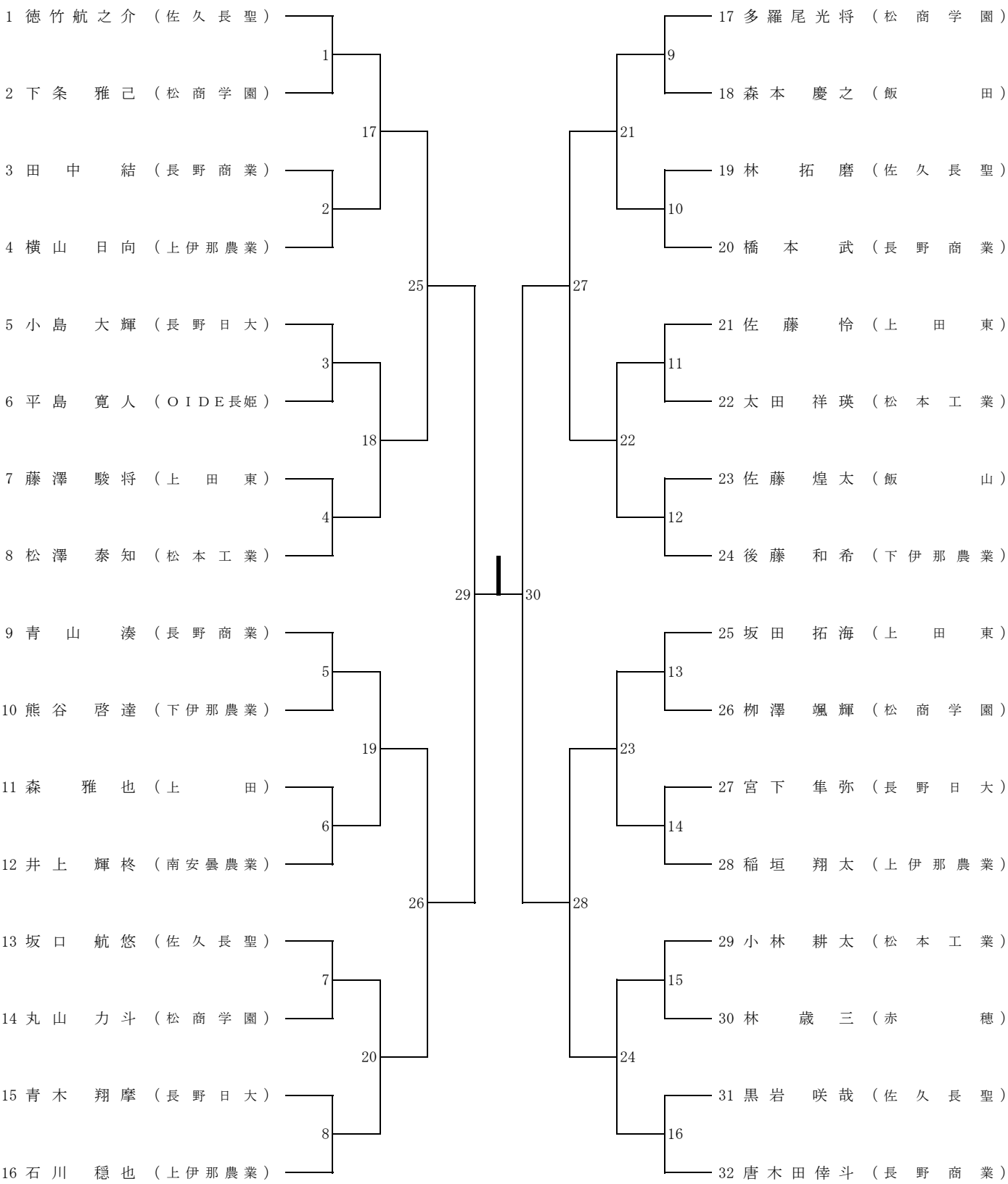
- ◎ 正しい剣道が継続され、正しく豊かな心が育つよう、公正かつ厳正に審判する。
- ① 有効打突の判定を誤らないようにする。
(引き技・左胴の見誤りをなくする。技の違いと錬度に応じた打突の見極めをする。)
- ② 申し合わせ事項にある「正しい鏝競り合い」の内容を正確に把握し、不当な鏝競り合いの「反則」を見逃さないようにする。
(反則と見なした時点で主審は試合を中止し合議をかける。)

- ③ 正しい鰐競り合いが10秒程度続いた場合、安易に「分かれ」をかけず、原則的にいずれか一方に時間空費の反則をとる。
(10秒の時間感覚を日常より身につける努力をする。)
(その他鰐競り合いにおける措置は、別紙「鰐競り合い改善の補足事項(平成22年5月3日決定)」による。)
- ④ 一時中止要請に対しての処理を適切に行う。
(不適切なものは「反則」にする)
- ⑤ 場外反則のとりかたを正確にできるように努力する。
(「場外」と「押し出し・突き出し」の判定を正確に行う)
(「止め」を宣言する時期を適切なものにする)
- ⑥ 危険な突きは反則とする。
(有効打突とする意志のない危険な突き、例えば、相手の場外反則をねらって突いたもの、あるいは引き技を出した相手に残心をとらせないで相手の有効打突を消すことをねらって突いたものなどを反則とする)

(平成 4年5月25日 制 定)

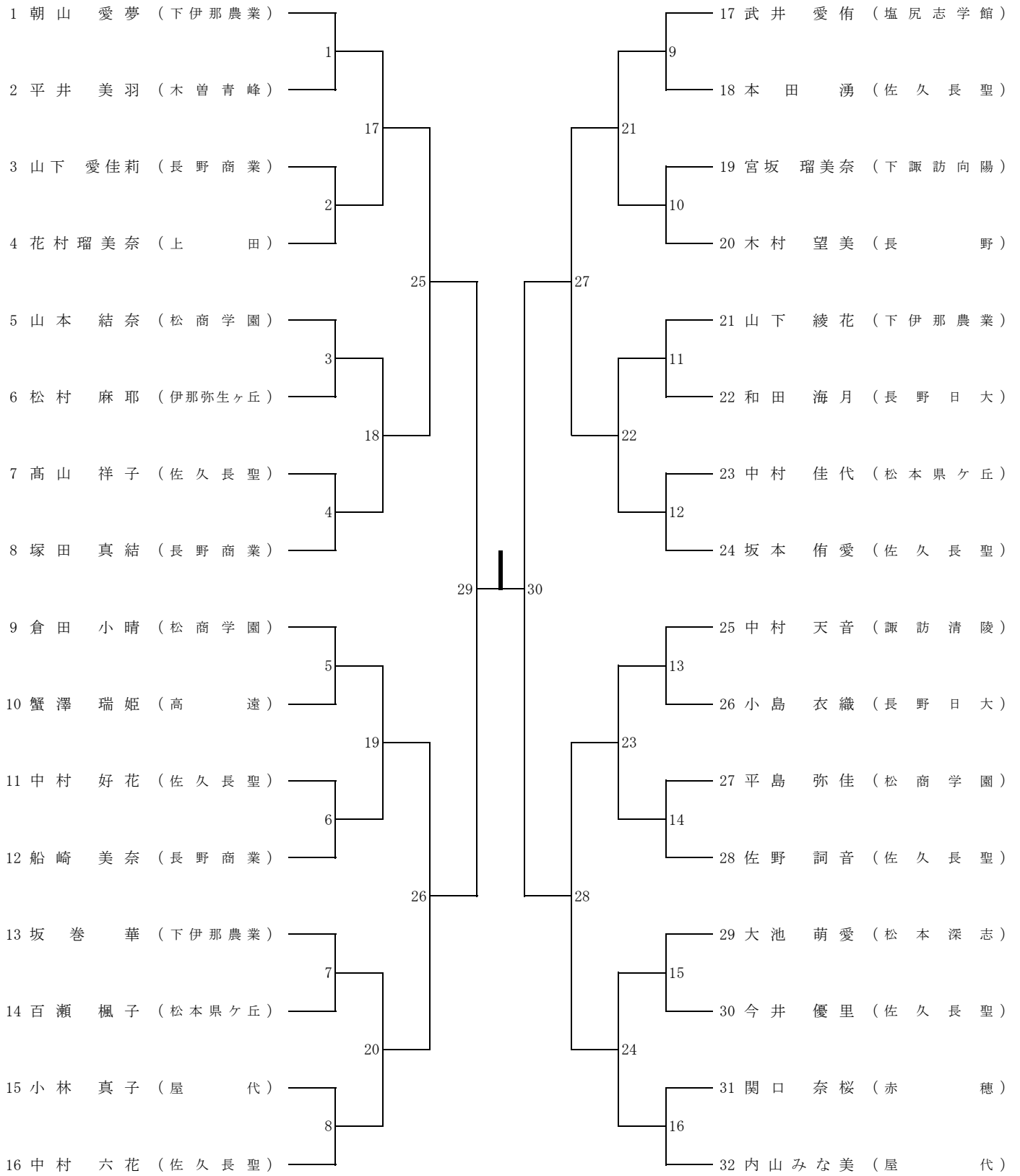
(平成22年5月3日一部改定)

男子個人戦



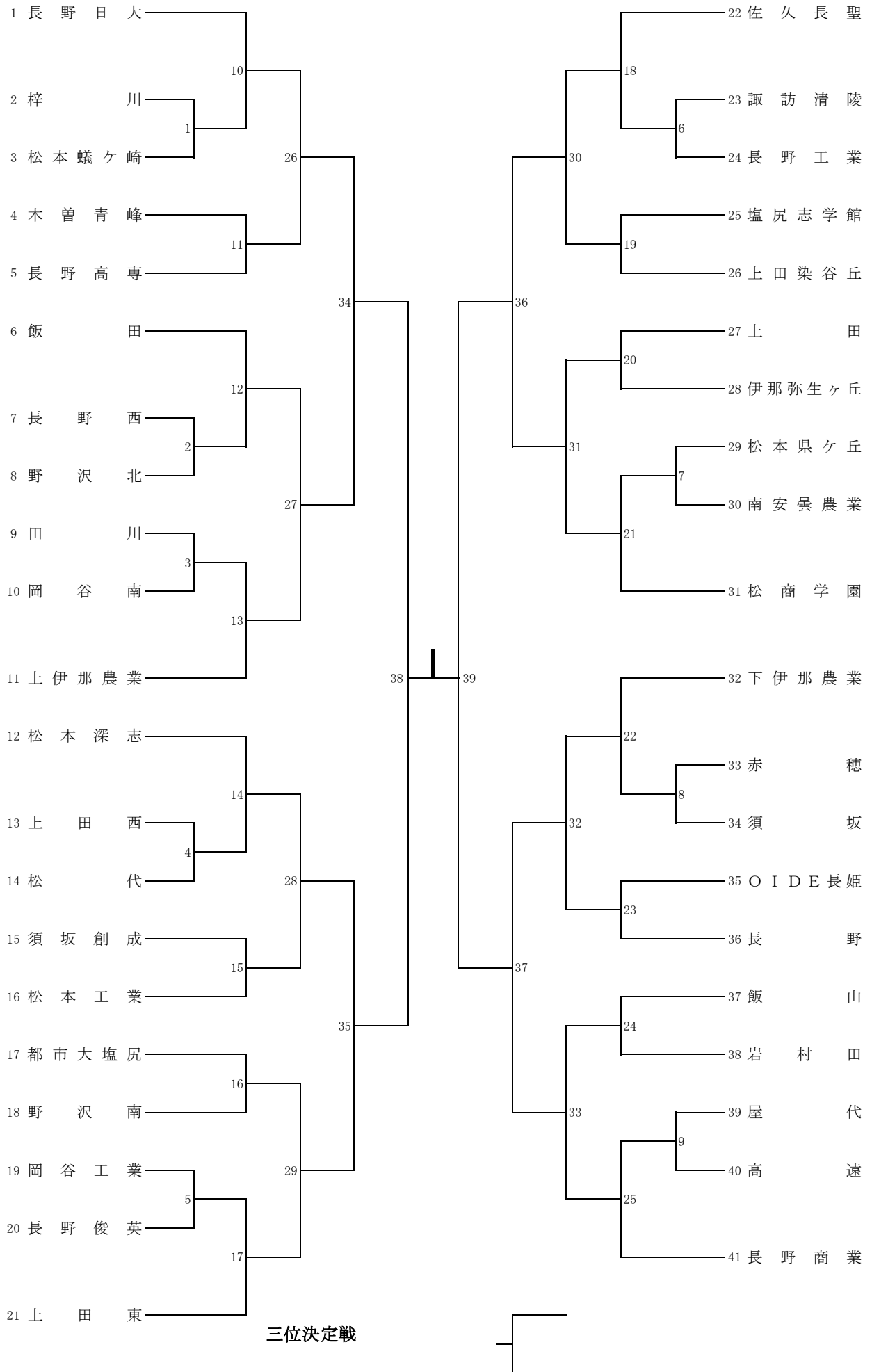
三位決定戦

女子個人戦

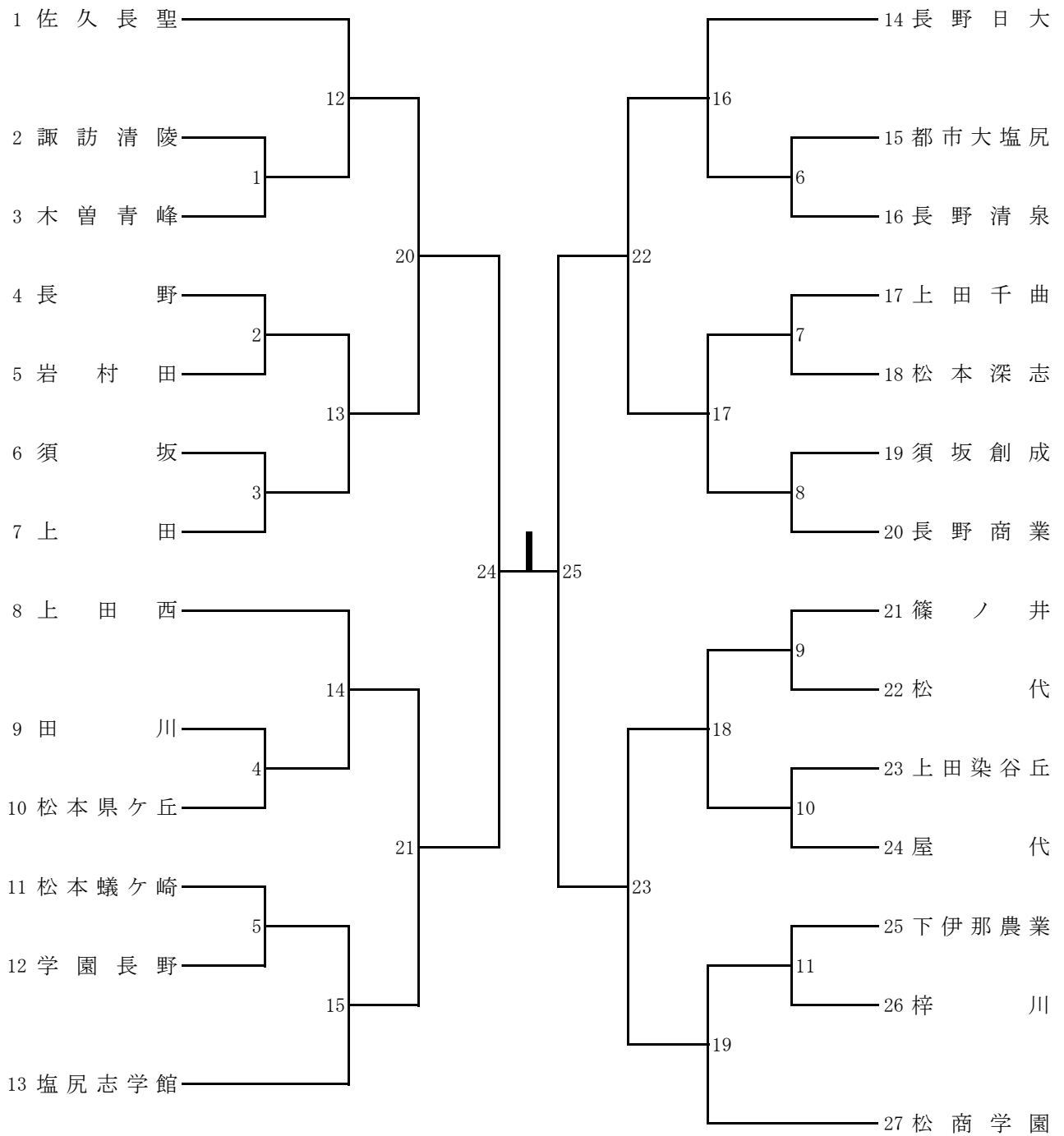


三位決定戦

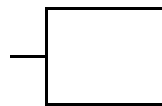
男子団体戦



女子団体戦



三位決定戦



令和4年度 長野県高等学校総合体育大会剣道競技参加選手名簿

男子団体

	学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	補 員	補 員
1	長野日大	小口	田子	小島	嶋田	宮下	青木	志村
2	梓川	河内	樽沼	上條				
3	松本蟻ヶ崎	飯森	内藤	加地	水谷	荻野	津田	友廣
4	木曾青峰	平井	中澤	中村	深澤	松尾		
5	長野高専	岡本	岡村	笠井	中村	阿藤	永井	河西
6	飯田	櫻井	澤柳	上野	下岡	宇佐美	森本	竹村
7	長野西	安田	片山快	片山怜	水澤	下田	須藤	若狭
8	野沢北	津金	小池	田中	柳沢	小林		
9	田川	田中	杉田	桐原	黒沢	飯田		
10	岡谷南	藤森	馬場	藤沢	赤木			
11	上伊那農業	稲垣	酒井	石川	仲藤	横山	田中	河合
12	松本深志	小池	足立	加藤	蒲生	岡本	飯嶋	鮎井
13	上田西	関翔	大平	土屋	柳澤	関和	甲田	吉見
14	松代	滝沢伊	飯森	岩下	米澤	宮澤	星澤	滝沢智
15	須坂創成	山崎	小林	駒村	大森	淀	前角	益満
16	松本工業	小林	橋倉	唐沢	太田	上條	松澤	棚橋
17	都市大塩尻	下田	西尾	高桑	高橋	塩原雅	塩原裕	
18	野沢南	曾我	市川	高梨	篠澤	新海		
19	岡谷工業	関	大塚	吉村	浅野	澤田		
20	長野俊英	島崎	小松崎	丸山	廣田			
21	上田東	藤澤	市川	佐藤	深井	坂田	中沢	仁木
22	佐久長聖	坂口	前角	坪内	柳澤	徳竹	小平	林
23	諏訪清陵	丸山	土田	吉池				
24	長野工業	下条	石井	徳武	小林佑	吉池	小林瑛	中沢
25	塩尻志学館	鍋島	高橋	落合	渡邊	神戸	柳澤	
26	上田染谷丘	宇都宮	半田	山寄	五十嵐	若林	高橋	永井
27	上田	天野	宮下	瀧澤	邑田	森	小口	
28	伊那弥生ヶ丘	林	小町谷	北原	三澤	志春	日酒	井三澤尊
29	松本県ヶ丘	川合	坂巻	百瀬	木幡	友廣	北原	池上
30	南安曇農業	千國	井上	怜井上	輝宮	城浅	川	
31	松商学園	丸山	多羅	尾柳	澤松	井下	条熊	谷島田
32	下伊那農業	仲川	水野	菅沼	熊谷	後藤	松澤	矢澤
33	赤穂	宮島	高木	林	金澤	小林	平出	
34	須坂	本村	金児	小山	北澤	外谷	青木	梅本
35	O I D E 長姫	佐々木	原	三石	金田	平島		
36	長野	大和	森廣	田中	中澤	小林	千川	福泉
37	飯山	利根川	藤沢	阿部	佐藤	宮島	小嶋	永峯
38	岩村田	青木	高安	小林啓	黒澤	小林悠		
39	屋代	星澤	酒井	若狭	島田	壬生	大澤	大和
40	高遠	土屋	高田	石川				
41	長野商業	田中結	唐木田	中島	青山	橋本	甘利	田中恵

令和4年度 長野県高等学校総合体育大会剣道競技参加選手名簿

女子団体

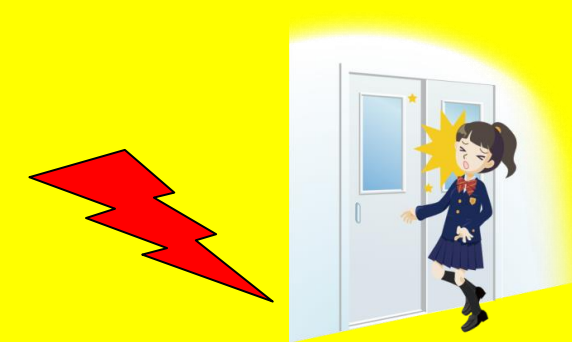
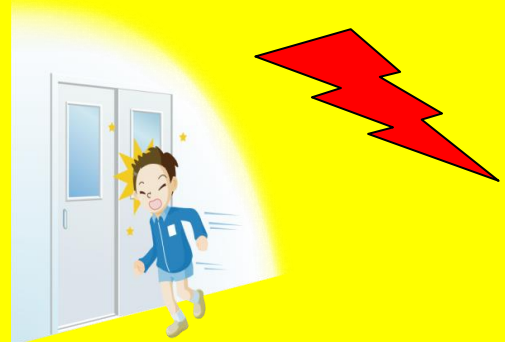
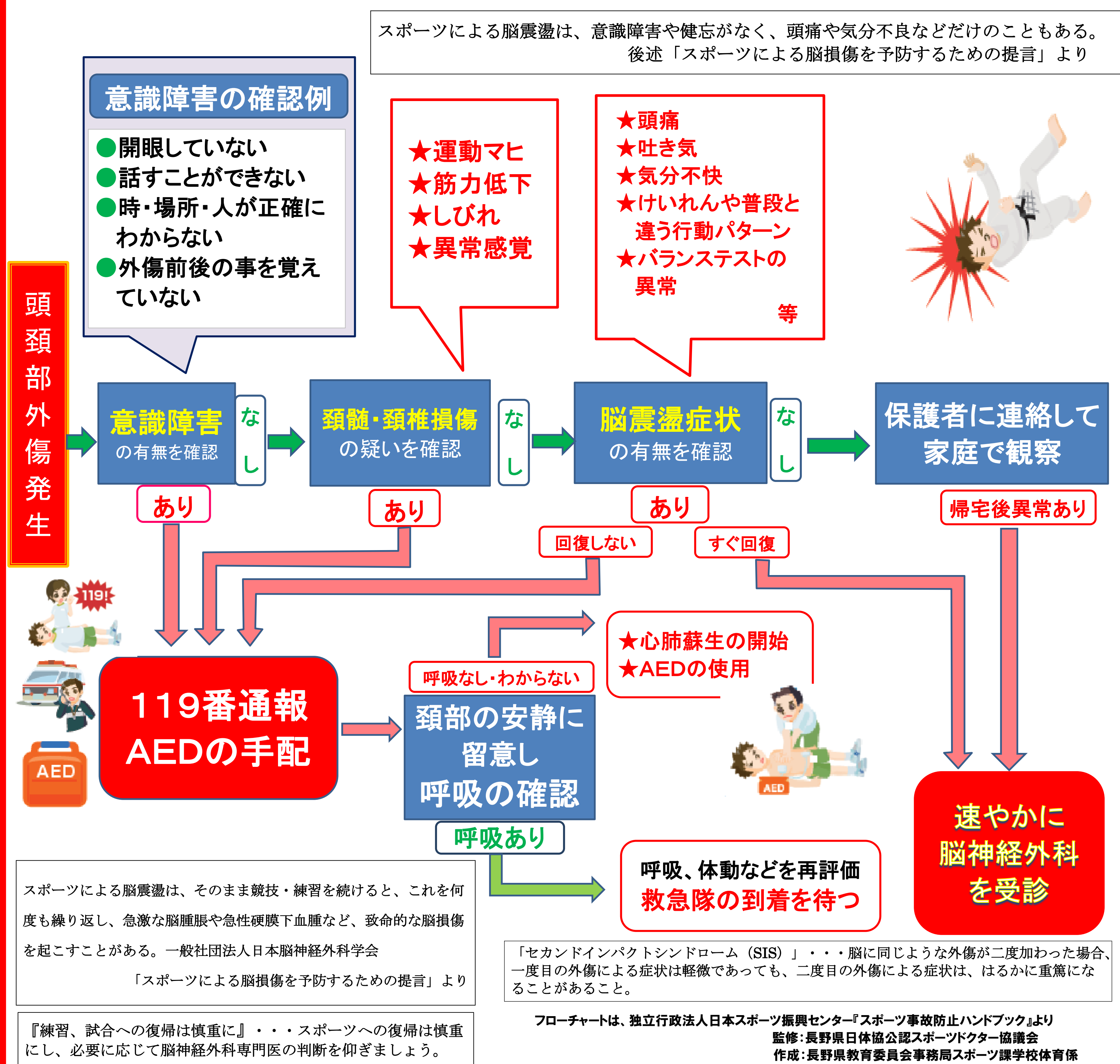
	学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	補 員	補 員
1	佐 久 長 聖	高 山	坂 本	佐 野	川 手	中 村 六	今 井	中 村 好
2	諏 訪 清 陵	畠 山	林	中 村				
3	木 曾 青 峰	林	寺 田	本 名	平 井			
4	長 野	青 柳 知	沖 田	木 村	荻 原	若 林	森	青 柳 里
5	岩 村 田	笹 木	浅 沼	羽 毛 田	岩	山 崎		
6	須 坂	五 明	天 白	毛 利				
7	上 田	花 村	菊 地	八 巻	南 山	篠 子	竹 花	久 保
8	上 田 西	大 澤	東 福 寺	小 松 原	笠 原	柳 沢		
9	田 川	市 川	島	五 十 嵐	長 瀬			
10	松 本 県 ヶ 丘	百 瀬	小 幡	中 村	吉 田	上 原		
11	松 本 蟻 ヶ 崎	小 川	野 口	清 水	堀 江			
12	学 園 長 野	栗 林	小 林	足 立				
13	塩 尻 志 学 館	降 旗	小 平	武 井 愛	高 木	武 井 美	赤 羽	
14	長 野 日 大	田 中	和 田	小 島	越 山	松 山	永 井	渡 邊
15	都 市 大 塩 尻	島	井 川	今 關				
16	長 野 清 泉	松 本	宮 下	青 木	水 崎			
17	上 田 千 曲	齋 藤	塚 原	柳 沢	佐 野	浦 上		
18	松 本 深 志	高 橋	塩 原	坂 野	大 池	岩 下	阿 部	
19	須 坂 創 成	田 子	中 澤	北 澤				
20	長 野 商 業	塚 田	福 島	船 崎	山 下			
21	篠 ノ 井	中 澤	渡 辺	島 田	若 林	山 城		
22	松 代	椎 名	戸 矢 崎	永 江				
23	上 田 染 谷 丘	太 田	権 田 は	権 田 こ	鶴 巻	櫻 井	箱 山	
24	屋 代	小 林	星 野	柳 沢	村 田	内 山		
25	下 伊 那 農 業	朝 山	島	坂 巻	山 下			
26	梓 川	笠 井	長 谷 川	加 藤				
27	松 商 学 園	平 島	内 山	上 島	倉 田	山 本 結	山 本 紗	宮 澤

注意！

- 頭頸部や顔面に強い衝撃を受けた時は
◇安静にし、すぐに専門医の診察を！
◇本人が「大丈夫」と言っても競技に復帰させない！

※意識があっても生命にかかわる場合があります

頭頸部外傷事故発生時の対応フローチャート



各学校は下記の様式のとおり団体戦選手表と個人戦個票を作成し、大会当日審判・監督者会議までに本部へ提出して下さい。

団体戦用 B5 用紙を 6 枚使用して、メンバー表を作成してください。

○					
学 校 名	姓	姓	姓	姓	姓

←B5 1 枚→ ←B5 1 枚→

個人戦用 (B5 サイズ一枚で作成)

○
姓
(校 名)

- ※ 学校名を男子は黒、女子は朱書して下さい。
- ※ 団体戦は左より 先鋒・次鋒・中堅・副将・大将の順に記入、選手が 4 名または 3 名の場合左よりつめて記入
- ※ 個人戦は左上 (○印の位置) に選手番号を記入してください。
- ※ 団体戦メンバー表は、○の位置にリーグ表に記載されている自校の番号 (例 A1 等) を記入してください。

大会に関する問い合わせ先

長野県高体連剣道専門部

南安曇農業高等学校 榛葉 亨

Tel 0263-72-2139 Fax 0263-71-1150

長野県高体連事務局

〒380-0802 長野市上松 1-16-12

長野高等学校 金鵒会館内

Tel 026-234-1205 Fax 026-234-1240

令和4年度 長野県高等学校体育大会剣道大会

竹刀点検確認証

下記について、選手の竹刀を監督が確認後□にチェックし、適正な竹刀のみ使用させて下さい。

- 1 ☐ 長さは適正である。(117cm以内)
- 2 ☐ 重量は足りている。(男子480g以上、女子420g以上)
- 3 ☐ 先皮先端部最小直径値は適正である。(男子26mm以上、女子25mm以上)
- 4 ☐ 竹刀最小直径(先端より8cm)(男子21mm以上、女子20mm以上)
- 5 ☐ 中結は適正な位置に固定されている。
- 6 ☐ 竹と竹の間に極端な隙間がない。
- 7 ☐ 破損やささくれがない。
- 8 ☐ 滑り止めのついている柄皮を使用していない。
- 9 ☐ 弦は色が単色で、適正に締められている。
- 10 ☐ 柄皮には高校名・名前のみが明記されている。
- 11 ☐ その他、全日本剣道連盟の規格に外れていない。

本大会出場選手の竹刀に関する上記の項目を確認しました。

男子出場選手 _____ 名 確認竹刀本数 _____ 本

女子出場選手 _____ 名 確認竹刀本数 _____ 本

令和4年 _____ 月 _____ 日

学校名 _____

監督氏名 _____ 印

※この竹刀点検確認証は監督が当日受付へ提出して下さい。

A 表

保険会社への報告のための基礎資料となります。
ご記入の上、開催県の専門部にご提出ください。

各校顧問 → 専門部

No. _____

報告日 令和 年 月

2022年度活動状況報告書

大会名 長野県高体連総合体育大会剣道大会

学校名 _____

顧問名 _____

日 程	エントリー選手	左記以外の選手	マネージャー	教員・職員・外部指導者
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
合 計				

* 日程が重複する場合は、合計日数に算入しない。例) 出発日後、抽選会がある場合。

* エントリー選手以外の選手とはエントリーされていない応援・補助員などの部員をさします。

* 選手と応援・補助員の人数が重複しないように注意してください。エントリー選手が試合後、同日に補助員や応援を行った場合はエントリー選手として計算してください。

例) 同一競技日に選手として出場した生徒が、別の生徒の試合の補助員として手伝った

エントリー選手 1名 左記以外 0名

* 団体戦、個人戦が混在する場合、同一競技日の選手人数が重複しないように注意してください。

例) 同一競技日に、個人戦選手5名、団体戦10名、両方参加(重複)した選手3名の場合。

選手数 : $5 + 10 - 3 = 12$ 名となります。(1日に何試合出場しても、延べ1名のカウントとなります)

各校顧問は、自チーム競技終了日までに専門部に提出すること

会場が複数の場合には競技終了会場にて提出すること

参加者確認票（兼 健康チェックシート）役員・監督・顧問・審判員・選手・部員

氏 名

↑ 該当箇所に○をしてください

学校名

生年月日 昭 ・ 平 年 月 日 年齢 歳

血液型 RH () 型

住所 〒

連絡先 TEL

既往症 なし ・ あり ()

緊急連絡先 TEL

(大会時の緊急事態に備えて連絡の取れる方の連絡先)

新型コロナウイルスワクチン接種について 3回実施 ・ 2回実施 ・ 1回実施 ・ なし ※該当箇所を○で囲む

《個人情報の取り扱いについて》記入された個人情報は、本連盟が責任をもって管理し、大会運営における緊急時の対応に使用することがあります。

項 目	5・25	5・26	5・27	5・28	5・29	5・30	5・31	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5
1 検温【平熱 ℃】												
2 体がだるくない												
3 息苦しさがない												
4 のどの痛み・せき・たんがない												
5 鼻水・鼻づまりがない												
6 頭痛、腹痛がない												
7 におい、味を感じる												
8 同居家族に1～7のいずれの症状もみられない												
9 政府から入国制限等を受けている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がない												
10 感染が疑われる知人との接触がない												
11 県外への往来・滞在の有無 ※有の場合：都道府県名記入	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無

【記入上の注意点】 ☆1は体温を記入する。 ☆2～10は○×を記入する。 ☆11はどちらかを○で囲む。

○この票は大会当日持参し、会場入場時に係員に提示、受付時に提出してください。 《県高体連剣道専門部》